

# JAAC だより

## 留学とグローバル化する教育の場（3）

### — 大学秋学期入学制への移行を考える —

大学の秋入学制については政府をはじめ、教育界、産業界で様々なシミュレーションと議論が行われています。そもそも、秋入学制の導入は大学のグローバル化を目指し、入学時期についても国際標準にしていこうというのですが、それは日本の社会全体のしくみにも大きな影響を及ぼすものとなります。したがって、今すぐに秋入学制を実施するというわけにはまいりません。大学のグローバル化とは、単に入学時期を国際標準にすれば良いというものではなく、大学そのものの資質も国際標準にしていかななくてはならないはずで、例えば、必要であれば授業は日本語でも英語でもできるか、と言われれば、現時点においては非常に難しいでしょう。この場では、大学のグローバル化を進めるためには何が必要かを検証するのではなく、秋入学制そのものによって、どのような影響が出るのかについてを考えてまいりましょう。前号では、秋学期入学制についてのメリットを中心に紹介いたしました。今号では秋学期入学制における諸問題やデメリットなどについて皆さんと考えてまいりたいと思います。

まず現行で一番大きな問題となるのは、高校卒業の後、大学に入学するまでの約半年間と、大学を卒業した後、就職をするまでの約半年間をどのように過ごすか、ということでしょう。この期間をギャップターム（またはギャップイヤー）と呼んでいます。このギャップタームをデメリットとするか、それともメリットとするかは考え次第かもしれません。高校から大学への進学を1ヶ月も無駄にすることなくスムーズ(?)に行うことを理想的とするのであれば、これはデメリットとなるでしょう。また、大学卒業後、1ヶ月以内に社会人となって入社することを理想とするのであれば、大学卒業後のギャップタームもデメリットになります。もし、このギャップタームをなくすのであれば、小中高校の入学時期と卒業時期も大学のそれに倣う必要があります。先月、2月中旬にある新聞社とその系列放送会社が世論調査を実施したところ、東京大学などが検討している大学の秋入学制には実に49%が賛成しているという結果が出ました。また、併せて小中高校の秋入学制への移行を望む声も半数近くに達しているという結果が出ております。この結果から、大学の秋入学制への移行には社会の大多数が賛同していることとなります。また、なぜ半数近くの意見として小中高校の秋入学制を支持しているのかについては、単にギャップタームを回避したいのか、それとも他の理由があるのかははっきりしておりません。しかし、高校留学を望む高校生にとっては、高校の国際標準化ともなる秋入学制により、留学をより容易なものにすることは間違いありません。

大学卒業後の約半年間ギャップタームになることも大きな問題の一つです。この点についても、産業界や経済界では年2回の就職時期の検討や、随時、あるいは年に複数回の就職時期を設定する考えなど、様々な検討と議論を行っております。就職の問題は当然のことながら民間企業だけの問題ではありません。省庁、官庁への就職といった国家・地方公務員の就職時期も民間企業同様に検討していかなくてはならない事案です。これらのことから見ても、大学の秋入学制は単に大学だけの問題ではなく、教育制度をはじめとして、社会全体の仕組みを大きく変革させるものと成りえることでしょう。

では、このギャップタームそのものが問題であるならば、その期間をどのように過ごすようにすればデメリットをメリットに変えることができるのでしょうか。政府関係者の中には、このギャップターム期間を若者のボランティア活動や意義ある留学の期間などにあて、若者が社会貢献活動に参加する機会を設けたり、グローバル人材の育成に役立てたりという考えもあるようです。このような経験は、長く社会に貢献する社会人として成長していく過程において有意義なことになると思われます。大学の秋入学制が教育のグローバル化を図る一環として考えられるのであれば、それによって生じるギャップタームの過ごし方自体も制度化していく必要があるのではないのでしょうか。実は、ギャップタームの制度化を整えることの方が教育のグローバル化を推し進める上で、より効果的であり、意義のあることになるかもしれません。

今号では、大学の秋入学制がデメリットとなる点を考えてまいりましたが、これは現行においてはデメリットとなる、ということであり、秋入学制に伴い社会の仕組み全体が変わればむしろメリットになる点も多いということも同時に考えていくことが重要かと思えます。長年に渡って我々が慣れ親しんできた制度が今、大きく変わろうとしています。今号と次号でより詳しくご紹介する予定ですが、グローバル化する教育の場とは大学だけに求められているものではありません。高校でもすでにグローバル化が始まろうとしています。グローバル化ということばだけが独り歩きしているようにも見受けられる中で、真のグローバル化とは何かをしっかりと見極めることが大切だと思います。 (完) (カリフォルニア事務局： 照井)

## 変わりつつある学生の就職意識（2）

### － 企業選択における意識の変化 －

今年も新たな社会人がまもなく誕生します。就職氷河期、或は、就職超氷河期と言われてきた昨年までの就職難は、今年、若干の回復傾向が見られたようです。厚生労働省と文部科学省の調査では、2月1日現在の今春卒業予定者の就職内定率は80.5%となり、前年同時期比で3.1%の上昇となりました。過去最低の内定率からは脱したものの、まだ企業の採用意欲は回復しておらず、景気の回復とは言えない状況です。

このような状況の中で、就職活動をする学生の企業選択における意識の変化が見られるようになりました。大きな変化と言われるものの一つに、大手志向から中小志向へ、が挙げられます。依然、「寄らば大樹の陰」的な考えが反映されているものの、大手企業の名の下に自分が望まない業務に就くよりも、自分がやりたい仕事に就くことを望む傾向が増えているようです。また、長年の歴史を誇る大手優良企業と言われてきた企業の経営不振や倒産という事実を目の当たりにして、「今まで優良企業だった企業」から「今後伸びる企業」に就職をしたいという意識の転換が高まっているようです。さらには、給料の額や福利厚生面での充実度よりも、職場内の良好な人間関係や雰囲気を重ねる傾向が見られます。これらのことを如実に現しているのが前号でご紹介したように、今春卒業予定者の就職意識である「個人の生活と仕事を両立させながら、人のためになる仕事をして、楽しく働きたい」ということだと思えます。

近年、総体的に低い年取でも生活できるという安心感（？）からなのか、または終身に渡っての保証が得られない雇用形態でも仕方がない、というやや諦めの境地からなのか、大手企業離れとも言うべき現象が見られるようになりました。前述のように、未だ完全な景気回復の兆しが見られない社会情勢のなかで、大手企業の積極的、且つ、意欲的な採用姿勢が再び始まらない限り、このような傾向は続くと思われまます。結果的に、男女共に晩婚化が進み、ますますの少子化が進むのではないかと懸念もあります。現在でも時折耳にする「勝ち組」と「負け組み」という二極化した社会を現すことばも、自分が幸せだと感じる生活を送れる人が勝ち組である、というように、大手企業に入ったことや、待遇面で優遇されている状況にある人を短絡的に勝ち組と称するのではない、という意識が芽生えているようです。これは、決して負け惜しみを言うのではなく、自分の幸せとは何なのか、を考えることができる人たちが増えてきているのだと信じたいものです。（完）

（照井）

### － 東日本大震災から一年 －

あれから一年が経ちました。いまだに家族のもとに帰ることのできない多くの行方不明の方々がいらっしやいます。被災地では今なお復興の道が閉ざされているところもあります。原発事故によって住み慣れた故郷にはもう二度と戻れない方々もいらっしやいます。

時の経過とともに、直接被災しなかった私たちの多くは、いつの間にか被災地や避難所で暮らす人々のことを考える瞬間（とき）が少なくなってきたのではないのでしょうか。震災から一年を経過した今、もう一度、あの時のことを思い出し、私たちにできることは何なのかを考えてみませんか。つい先日も東北地方沖と茨城・千葉県沖を震源地とする最大震度5強の地震がありました。幸いにして大きな被害は出ておりませんが、いつの間にかこの規模の地震に慣れてきてしまっている我々がいるようです。

（照井）

### 日本の高校に海外大学入学課程を導入

グローバル化に対応する人材育成を目的として、海外で学ぶ日本人学生を増やすために、このほど文部科学省は「国際バカロレア（IB）」課程を日本の高校に導入することを決めました。国際バカロレア（IB）は世界の大学が採用する共通の大学入学資格取得に必要な教育課程で、日本ではこの課程を実施している高校は少ないのです。この課程は日本の高校指導要領とは内容も異なり、授業も原則として英語で行うことから、一般の高校での導入は難しいものでした。文部科学省は、今後5年間をかけておよそ200校の高校に国際バカロレア（IB）課程を導入しながら、日本の高校内に海外大学留における支援課程を設置していく方針を決めました。「グローバル化する教育の場」はもはや大学に留まることはなく、高校教育の場にもグローバル化推進の波が来ようとしています。このことは次号であらためて紹介してまいります。（照井）

Let me remind you . . .

★JAAC生の皆さん、保護者の皆さん、何でもお気軽にご相談ください

■就職活動をするJAAC生の皆さんへ：常に海外大学卒業生（見込み者）対象のジョブフェア等の情報を積極的に取り入れましょう。希望する企業の研究や就職面接時に質問することを事前に整理しておくことが大切です。

●JAAC本部内保護者様専用ご連絡・ご相談窓口：

フリーダイヤル 0120-525-626 [tokai@jaac.co.jp](mailto:tokai@jaac.co.jp) 担当：高瀬

JAAC 日米学術センター 鈴木：[t.suzuki@jaac.co.jp](mailto:t.suzuki@jaac.co.jp) ©カリフォルニア担当：照井 [k-terui@mtg.biglobe.ne.jp](mailto:k-terui@mtg.biglobe.ne.jp)